

## 序文

日本造血細胞移植学会のみならず移植に係わる人々にとっての積年の懸案事項であったデータの一元化管理体制が関係各位のご尽力により運営されるようになり喜びに堪えません。このことは日本の造血細胞移植史上画期的な出来事であり誇るべきシステムであります。平成 21 年 2 月に札幌で行われました第 31 回 JSHCT 総会では名古屋大学医学部造血細胞移植情報管理・生物統計学講座よりデータ一元管理化後初めての出来立ての貴重なデータの提供を受け会長講演でその一部を報告させていただくことができました。同講座より平成 20 年 12 月に発刊された最終報告書にその一元化の歩みの御苦労がよく伝わってきます。日本造血細胞移植学会、日本小児血液学会、日本骨髄バンク、臍帯血バンクと事務局の方々のご努力で登録へ向けた多くのご議論と歩み寄りと構築があり大きな金字塔を築いて下さいました。紙面をお借りして関係各位に心より深謝申し上げます。造血細胞移植全国調査の一元化を実現したことにより登録率向上のみならず今後さまざまな解析がなされ今までには行えなかった移植の実像を多角的にとらえることができ移植医療の向上に多大の貢献がなされると思います。データの解析と論文化が加速されまたそれらのデータをもとに移植施設への有形無形の還元がなされ各施設で移植技術や環境の改善がもたらされることが期待されます。例年の移植件数などの集計に加え今回多くの新たな解析結果が報告されております。これらのデータは日本造血細胞移植学会の財産であるばかりでなく世界の移植医療の指針にもなりうるものと思います。今年度の報告書をご参考に新たな「パイオニアスピリット」で移植医療に立ち向かっていただきたいと思います。

2009 年 3 月

第 31 回日本造血細胞移植学会総会会長 笠井 正晴  
(札幌北榆病院 血液内科)

## 序文

日本造血細胞移植学会平成 20 年度全国調査報告書が完成致しましたのでお届け致します。本年度より「一元化体制」での 4 つの registry 合同の報告書となります。巻末には一元管理委員会の規約・細則を掲載し、4 つの registry の業績一覧も掲載しました。本報告書の作成に当たり、名古屋大学造血細胞移植情報管理学講座の諸先生、日本造血細胞移植学会データセンターと小児血液学会登録事務局のスタッフの方々、骨髄移植推進財団移植調整部および日本さい帯血バンクネットワークのご努力に、そして何よりも移植施設の方々の努力と熱意に感謝と敬意を表します。

報告書を見て参りますと、移植登録総数が 2007 年に前年割れしているように見えますが、毎年残念ながら報告漏れがあり、翌年にまとめて追加報告される事もありますので、2007 年度の移植数は最終的には 2008 年度の集計の際明らかになるようです。各種疾患毎の移植数の推移や移植法別の数など、我が国における造血細胞移植の臨床統計は、我々が日常診療の際に移植適応を考える上でも大変参考になるばかりでなく、これからの **prospective study** の礎ともなるものです。データセンターの持つ資料は、言わば宝石の原石です。これを磨いて初めて光り輝きます。どうぞ、奮ってデータ利用していただけますようお願いいたします。

我が国での疾患登録がなかなかうまくいっていない中で、造血細胞移植に関しましては全国レベルで毎年定期的にまとめ、だれでも必要に応じてそれを参照し、臨床にあるいは研究に利用出来るようになったことの意義は誠に大きいと言えます。この資料が多く数の移植関係者の診療の一助となり、我が国のさらなる造血細胞移植医療の発展に活用されるよう願って前書といたします。

2009 年 3 月

日本造血細胞移植学会データ管理委員長  
坂巻 壽